旅の見どころ **1**

上高地から徳本峠へ

北アルプスの玄関口、長野県上高地。
ここは、槍ヶ岳や穂高岳への登頂を目指す人、景観を楽しみながらトレッキングする人など、年間120万人が訪れます。その上高地に縁深いのが、日本人に登山の楽しみを伝えたイギリス人、ウォルター・ウェストンです。昭和初期に観光バスが開通するまでは、上高地へ入るためのルート上にあった徳本峠。ウェストンは、この徳本峠から眺めた穂高連峰の美しさに涙し、その後、「日本アルプス」の名を世界に広めました。ウェストンが見た穂高連峰を眺めてみたいと、多くの登山者が、峠を訪れています。

旅の見どころ **2**

ランプの宿　徳本峠小屋

峠には、大正12年に建てられた「徳本峠小屋」があります。北アルプスで最も古い歴史を持つ山小屋です。小屋の主人は、岩本正義さん（61）。25歳の時、初めて峠から眺めた穂高の景色に感動し、「穂高を眺めながら暮らしたい」という夢をかえたいと、5年前、勤めていた運送会社を退職して、小屋の主になりました。去年、山小屋は新館を増築して、30人近くが泊まれるようになりました。発電機が使えるようになった今でも、岩本さんは、これまで愛されてきた小屋の雰囲気を大切にしたいと、今でもランプの灯をともし、登山客を温かく迎えています。

旅の見どころ **3**

山と向き合う

徳本峠から登山道を西に進むと、さらに穂高連峰を間近に眺められる場所があります。標高2645メートルの霞沢岳です。登山道は、徳本峠小屋の常連の人たちが30年かけて整備してきました。その一人、江口和博さん（60）。学生時代から山小屋を訪れては、食事の配膳、布団干しなどを手伝ってきました。妻のさわ子さん（61）と出会ったのも小屋です。江口さん夫妻は、今も、毎月のように峠を訪れては、楽しんで、山小屋の手伝いをしています。「いつまでも変わらない山と向き合うことで、自分自身とも向き合える」。多くの人に穂高の雄大さを感じてほしい願っています。

シリーズ山の歌　秋。
今回は、北アルプス穂高連峰をのぞむ長野県徳本峠（とくごう）。
その絶景を前に、人々は山と向き合い、
そして自分自身と向き合う。
穂高と語る人々の心に触れる旅。

小さな旅

～こころのふるさとにふれる旅～

コブック　vol.24

穂高　その峰と語る
長野県　徳本峠～霞沢岳

2011年 10月30日(日)放送

memo

アクセス方法

<上高地へのアクセス>
(車)松本ICから「沢渡駐車場/平湯駐車場」へ約1時間　バスに乗り換え約30分
(バス)【東京、大阪、名古屋、長野】から上高地直行バス
(電車)【JR松本/高山駅】バスかタクシーに乗り換え　約1時間30分
【JR松本/高山駅】バスかタクシーで、上高地線「新島々」　約2時間

長野県　徳本峠～霞沢岳　Map

小さな旅　ホームページ
http://nhk.jp/kotabi